

# ひのだいじんびん

昭和63年  
9月13日  
発行  
「ひのだいじんびん」  
編集発行部



## 9月15日 敬老の日 程久保在住 伊豆野フキさんの提言

九月十五日は、敬老の日。全国になんと百歳を越える高齢者は、二千六百六十八人。昨年より三百九十七人ふえて十八年間連続して記録の更新となるそうです。敬老の日を前に、ひのだいじんぶん編集局の八戸さん、河野さん、水野さんの三人で程久保在住の伊豆野 フキさんを訪問しました。

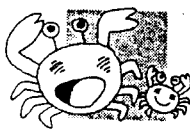


伊豆野さんは、明治二十八年生まれ今度の十月で九十四歳になられます。伊豆野さんは、お庭のみえる部屋のベットに腰掛けて、私達三人を迎えてくださいました。二十年前腰を痛められてからベットの生活にもかわからず実に明るく、心に濁りのないさわやかな印象をうけました。テニスが大好きで熊本の女学校時代によく遊んだとのこと。「和服にたすきがけでした。まるで漫画ですよ。」と笑ってはなされた。健康の秘訣は、なんですかと問うと「そんなものは、ありません。」とそっちょくに答えられた。「私は、年をとりましたからお化粧は、しません。化粧は、顔につけるのでは、なく

心につけています。いろいろなお話、学生時代、戦争のころの事などを伺いました。察するに、長生きの秘訣は、心豊かな生き方と規則正しく摂生した食事にあるようです。それから毎日コップ一杯の晩酌もなさっている、それも大切なことだとか。「敬老の日」にさいし、その集いの在り方について一言言いたいことがあるそうです。「漫才家や芸能人は、テレビでもみれるから、それより老人同志が得意のものを披露して、共に

K

## 神津島 船の旅に 参加して



八月二十五日後援会の旅行で神津島へ向かいました。出発の時間は、日の出桟橋は、どしゃぶり。しかし今回三度めの参加の高瀬さん、乾さん、池田さん、河野さんいずれも天気運のつよいひとばかり。神津島につく頃には、すっかり晴れ上がっていました。洋上のつどいは、盛大で美しい海にむかって池田さん の歌うたって久し振りに楽しい思い出をした。島につくと早速水着と昼食を用意して露天風呂へむかった。三十五年ぶりの水着姿にいたく感激、水着のうしろまえにみなさんと大笑い。夜、宿にもどるとキラキラと輝く

楽しみ、心のふれあい、肩のたたきあいの方が大切です。「早速、河野さんが健康会の健康まつりにお招きする事をお約束しました。いつまでもお元気でまたお話をお聞かせください。これを機会に今後ともよろしくさよならの挨拶をのべておわかれしました。「伊豆野さん、今後ともよろしく。」

Y

星空と新鮮なお魚料理。東京では、味わえぬこと。翌朝三人で島の裏側へ向かいました。可愛らしいベコニヤの花の咲くみち。おおきなヤシの木。地元の人に「よろしかったら」と声をかけられしばらく懇談しました。数年前よりチロリン村と名付けられたとか。戦時中は、五日市方面に疎開したことなど。その夜「なぎさの大交流集会」を予定していましたが微熱がでて失礼しました。翌朝には、元気をとりもどし無事に乗船しました。連日天候にもめぐまれ三泊四日のすばらしい船旅でした。

健康のつどいにむけてアンケート調査もおこなっていますので御協力ください。

また、この健康のつどいに関する疑問など地域のみなさんと楽しく懇談する機会です。老人健診・検査の結果など自分のからだのことについても詳しく学びます。さそいあわせのうえ御参加ください。

十月二十日 程久保地区センター  
日頃よりからだや健康のことについての疑問など地域のみなさんと楽しく懇談する機会です。老人健診・検査の結果など自分のからだのことについても詳しく学びます。さそいあわせのうえ御参加ください。

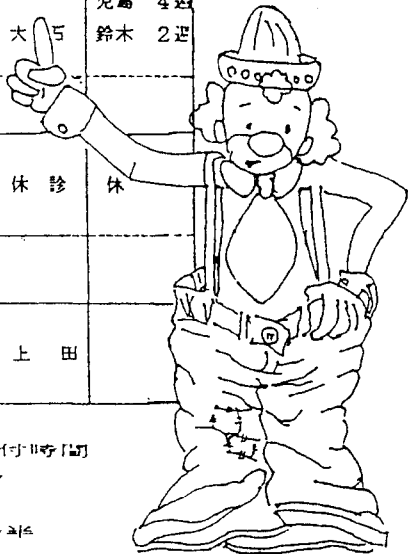
十月十九日 多摩平 地区センター  
社教センター

十月十二日 日野台四丁目 地区センター

# 健康会 医師 診療 体制表

81~6175

	月	火	水	木	金	土
午	佐々木	小林	佐々木	佐々木	宮地	佐々木 1.3.5日 児島 4日 鈴木 2日
前	増田	信夫	安河地	大石	大石	
子	乳児検診 予防接種	乳児検診 予防接種	乳児検診 予防接種	乳児検診 予防接種		
午	増田	信夫	休診	大石	休診	休
後	乳児検診 予防接種	消化器 肝臓				
夜	増田		池田		上田	
外						
問						



受付時間  
午前9時~12時  
午後2時~4時  
夜間5時半~7時半

# 健康だより



七月十二日、私たちは、はじめて日野台診療所を見学に行きました。老後保障の合同班会で、程久保の人々から健全会の良き、一夜間救急体制、差額ベット料なしを聞き訪問することとしました。この目で、お医者さん、看護婦さんの姿をみ、事務長のスライド等をつかった丁寧な説明を聞き、そして医療器具、処置室等を案内していただきました。当日はティ・ケアーの日で幾人かの方が二階でリハビリをおこなっていました。七夕

の短冊が結ばれていて、患者さんたちの願いごと祈る気持ちでした。玄関の猫の絵もすばらしい美しさで細かな作業をよくまあと感心してしまいました。さて、七月二十二日「あじさい」となつて私達の班が誕生しました。はじめて血圧測定、尿検査をおこないました。これからのたのしみな集いとなりましょう。

「あじさい」班 石田



あるのに驚きました。当時でも中央線の沿線で駅前には田圃があるのは、日野だけでしたから、自然がまだたくさん残っているのが嬉しくなりました。緑の沢山ある街を守っていききたいですね。子供達も三小、一中を卒業して、PTAなどにも参加して、地域の一員として生活してきましたが、十二年前に夫が心臓病で倒れてから、又看護婦として働き始めました。立川相互病院の外来に働いていましたが、昨年七月に日野台診療所に転

## 看護婦の山岸さん

早いもので日野市に移りすんで十二年になりました。初めて日野駅に降りたとき、駅前に田圃が



k

れながらも、今年もしっかり夏が通りすぎてゆきました。日野台二丁目在住の谷島ナミ子さんが、俳句「夏祭り」をよせて下さいましたので御紹介いたします。

一切れの西瓜に憩う夏祭り  
蝉の声ききて夏かこ長き梅雨



始めての人と御輿の重さ分け  
夏祭り終わりにて今朝の街眠る

## 夏まつり



動になりました。また地域の皆さんと御一緒出来て、ホッとした気持ちになります。診療所の仕事もいろいろな面で複雑で、分業化されている病院の仕事と又別な苦勞を感じます。地域の抱えている老人問題も深刻な課題ですね。協力会の方達と手をたずさえて、より良くなるよう協力していきたいと思っております。後三年余で定年退職を迎えますが、それまで元気で働きたいとがんばっています。

看護婦 山岸 文子

# 大石先生纪念馆について



七月十三日午後十時十分モスクワのレニングラード駅から寝台車にてレニングラードへと向かった。

面白いことにレニングラード駅はモスクワにあるのです。即ちこれから行く先の都市の名前がついているのです。寝台列車の整頓が終わった頃、女性の乗務員が私たちの所へ暖かい紅茶をもってきてくれた。我々は注文したわけでもないのに。大変ありがたかった。列車は闇の中をはしる。車外は雨のようだ。時々雷の光がみえた。レニングラード着十四日七時三十分。雨がふっている。出迎のバスにてホテル「ブルコフスカヤ」に着く。

所エルミタージュ美術館を見学。千以上の部屋があり、帝政時代に歴代の皇帝が皇居としていた。そして歴代の皇帝があつた多くの美術品や絵画がある。エルミタージュの北にあるベトロパブロスク要塞は、要塞の建設を始めた千七百三年がベテルブルク市の誕生となったものである。

七月十五日モーニング・コールでおこされ朝食後、医療施設を視察した。小児の精神疾患に対する管理、保健予防などをつかさどる施設。建物は外観上それほどとは言えないものであったが所長は、女医でいろいろと詳しく説明してくれた。婦人科も併設されていて、子供が母さんの腹の中にある時から母親の健康をも管理していくとの事であった。

移動のバスでは、添乗員が北朝鮮のサイ先生という科学アカデミーの生物学を専攻している先生であったが、先の大戦時ヒットラーのドイツ軍がレニングラードを攻撃、封鎖したのに対し、糧道をたれたた三百万の市民が飢えと寒さの中で九百日間、強固な防衛網をはりめぐらせ、ドイツ軍をよせつけず、最後の勝利を手にしたという話しをしてくださった。その街の美しさとともにその歴史に触れることができ感無量であった。

# ポイント